

**第3期ロジスティクス環境会議
第3回企画運営委員会**

2009年2月26日(木)10:00～12:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 大会議室

次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 研究会、委員会の活動内容について
 - (1) グリーン物流研究会
 - (2) 包装の適正化推進委員会
 - (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
 - 2) 調査関係の活動について
 - (1) グリーンロジスティクスチェックリスト調査
 - (2) 省エネ法実態調査
 - 3) 鉄道へのモーダルシフト促進に関する要望について
 - 4) 情報提供活動について
 - 5) 第2回本会議について
 - 6) その他について
3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第3期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、2008年度活動内容、及び2009年度活動計画(案)について
- 資料2 : 第3期ロジスティクス環境会議 調査関係の活動について(案)
- 資料3-1 : 「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望 活動結果の報告
- 資料3-2 : 「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望(最終版)
- 資料3-3 : 「鉄道へのモーダルシフト」促進に向けた今後の活動について(案)
- 資料4 : 情報提供に関する2008年度活動内容及び2009年度活動計画(案)
- 別紙1 : シンポジウム、講演会等のイベントの結果報告
- 別紙2 : CGLニュースの配信結果
- 資料5-1 : 第2回本会議 次第(案)
- 資料5-2 : 第2回本会議 タイムスケジュール(案)
- 資料6-1 : 2008年度スケジュール(案)
- 資料6-2 : 2009年度スケジュール(案)
- 参考資料1 : 第3期ロジスティクス環境会議 組織体制
- 参考資料2-1 : グリーン物流研究会 2008年度開催実績
- 参考資料2-2 : サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ(修正素案)(2月19日時点)
- 参考資料2-3 : 時間指定の分類・整理表(修正素案)
- 参考資料3 : 第3期ロジスティクス環境会議 2008年度の活動経過
- 参考資料4-1 : CGL活動のイメージ図
- 参考資料4-2 : 第1期からの活動の変遷と第3期の活動のイメージ
- 参考資料5 : 第2回企画運営委員会 議事録

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会の活動方針、2008 年度活動内容、及び 2009 年度活動計画(案)について

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画 (案)
グリーン物流研究会 (登録人数：90名)	ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、グリーン物流に関する各種施策の実施事例等の情報交換等を通じて、実践的な改善施策を研究する。	1. 研究会（講演会形式） 7回開催 2. 見学会 1回開催 3. その他 1) メンバー記入表の作成及び配布（新規） 研究会への参加目的、グリーン物流に関する課題等を各メンバーにご記載いただくとともに、その内容を全メンバーに配布することで、メンバー相互の人的交流の一助としていただいた。 2) アンケートの実施 (2008年度の活動の評価と反省のために実施した「2008年度活動アンケート」含めて、計8回実施) 3) ブログによる情報発信 (URL： http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/) <アウトプット> 『2008年度 グリーン物流研究会 活動報告書』	1. 研究会（講演会形式） 7回 * 「2008年度活動アンケート」結果等を踏まえて、運営形式等の工夫を検討 2. 見学会 1回 3. ブログによる情報発信の継続 4. 総括アンケートの実施 <アウトプット> 『2009年度 グリーン物流研究会 活動報告書』
包装の適正化推進委員会 (登録人数：26名)	物流の主要な1機能である「包装」の適正化による環境負荷低減に向け、荷主企業と物流企業等の課題を整理した上で、解決策を検討する。 さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。	1. 活動内容の検討 1) 「活動内容アンケート」を実施 2) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「包装に関わる環境パフォーマンスの算定」に関する検討を行う。 その中でも、特に委員の関心の高い「CO ₂ への換算」に向けた検討を行う。 2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討 1) 「包装に関わる環境パフォーマンスの算定に関する調査」の実施 各社における包装に関わる環境パフォーマンス算出状況等について確認 ⇒パフォーマンス算定に必要な基データもあまり捉えられていない実態 2) 「サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図(案)の策定」 (参考資料2-2) ⇒様々な主体においてある程度“読み替え”ができるようなコメントの追記等の修正が必要 3) CO ₂ 換算に向けた検討 (1) CO ₂ 排出原単位の整理 だれでも入手可能な原単位の情報収集 (2) 投入量、排出量の標準的算出方法の検討 製造業におけるワンウェイ、リターナブルの投入量における標準的算出方法の検討	2. 包装に関わる環境パフォーマンスの算定についての検討 1) サプライチェーンにおける包装材の流れのイメージ図の策定 2) CO ₂ 換算に向けた検討 (1) CO ₂ 排出原単位の整理 ・他の原単位の有無の確認 ・活用しやすいような整理 (2) 投入量、排出量の標準的算出方法の検討 ・製造業における標準的算出方法の検討 ・物流事業者における標準的算出方法の検討 (3) その他 (1)、(2)を踏まえた算出可能性の調査 <アウトプット例> 『輸送包装に関わる環境パフォーマンス算定ガイド』 行政等への意見・要望

研究会/委員会	活動方針	2008 年度活動内容	2009 年度活動計画（案）
<p>グリーン物流 推進のための 取引条件検討 委員会 (登録人数： 50名)</p>	<p>環境負荷と経済効率を考慮した物流に係る取引条件のあり方について、発荷主、着荷主、物流事業者間で課題を共有し、解決の方向性、方策を検討する。</p> <p>さらに必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。</p>	<p>1. 活動内容の検討</p> <p>1) 「活動内容アンケート」を実施</p> <p>2) 物流に係る取引条件を検討するねらい（含む過去の検討成果）の確認</p> <p>3) 上記アンケート結果を基に活動内容を検討 ⇒「時間指定」をテーマに検討を行う。</p> <p>2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</p> <p>1) 「時間指定に関するアンケート調査の実施」 ①着荷主、②発荷主、③物流事業者それぞれの立場における「時間指定」の捉え方等について確認 ⇒特に物流事業者側から①指定された時間に到着しても荷降ろし待ち時間の長時間化、②午前指定の集中等による配車・配送効率悪化に伴う環境負荷増</p> <p>2) 主な検討対象の審議 当委員会での主な検討対象を決定するために、業種等により「時間指定の分類・整理表」（参考資料2-3）を策定するとともに、同表を参考として、検討対象を審議 ⇒「メーカー⇒卸」、「卸⇒小売」を主な対象とする。</p> <p>3) 時間指定の見直しによるCO₂改善効果の算出等に向けた調査項目の検討 ⇒CO₂改善効果の算出については、一部委員にデータ等の御協力いただく形での調査実施を決定 ⇒上記とは別に、委員各社において時間指定の見直しが実施できた要因等に関する調査実施を決定</p>	<p>2. 「時間指定」が環境負荷に与える影響等についての検討</p> <p>1) 時間指定の見直しによるCO₂改善効果の算出等に向けた調査実施</p> <p>2) 推進するための施策の検討、及び実施にあたっての阻害要因の整理</p> <p>3) その他 ・時間指定と他の取引条件（例 リードタイム等）との関係</p> <p><アウトプット例> 『時間指定の見直しによるグリーン物流推進ガイド』 行政等への意見・要望</p>

第3期ロジスティクス環境会議
調査関係の活動について（案）

1. グリーンロジスティクスチェックリスト調査

1) 目的

第2期CGLで策定した「グリーンロジスティクスチェックリスト」の普及等を通じて、ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進する。

具体的には、本チェックリストに網羅されている「物流・ロジスティクスにおける環境負荷低減活動項目」の取組状況を集計・分析するとともに、回答企業に対して、集計結果（全体平均、業種平均と貴社回答）等を整理した簡易診断結果を送付することにより、自社の現状の取組度合いを確認いただき、今後の取り組みを進める際の参考資料としていただくことを目的としている。

2) 検討組織

グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG

3) これまでの活動経過

(1) 調査実施（2008年8月12日～10月31日）

（対象）

- ・環境会議メンバー（2008年8月12日）
- ・JILS会員（2008年9月2日）
- ・グリーン物流パートナーシップ会議メンバー（2008年10月17日）

⇒114社より収集

(2) 結果集計（2008年10月1日～12月中旬）

(3) 簡易診断結果の作成・送付（2008年12月末）

(4) 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の開催

（2009年2月12日（木）開催：出席者103名）

集計結果の報告にとどまらず、チェックリスト及び簡易診断結果の活用等の情報提供を目的に実施（詳細は資料4 別紙1のP2参照）

4) 今後の予定

(1) 2008年度活動

i) 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の開催報告

「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の概要を取りまとめた「CGLジャーナルⅢ vol.2」の発刊（2009年3月下旬予定）

(2) 2009年度活動計画（案）

i) 第2回調査に向けた検討

1社でも多くの方にご活用いただくために、チェックリストや活用方法の周知、診断結果の精

- 度向上、チェックリストの見直し等の検討
- ii) 調査実施 (2009年8～9月)
 - iii) 結果集計 (2009年10～12月)
 - iv) 診断結果作成・送付 (2009年12月)

2. 省エネ法実態調査

1) 目的

省エネ法で特定荷主、特定輸送事業者に作成、提出が義務付けられている定期報告書、計画書を収集し、環境会議メンバーにおけるエネルギー使用量や判断基準の遵守状況等の概況を集計、分析する。

なお、本調査は、第2期環境会議 CO₂削減推進委員会で実施していることから、可能な範囲で経年変化の比較も行うこととする。

2) これまでの活動経過

(1) 調査実施 (2008年8月7日～9月5日)

(2) 結果集計 (2008年9月6日～9月30日)

(3) 結果報告 (2008年9月30日～)

- ・環境会議ホームページに集計結果の速報版を掲載 (9月30日)
- ・環境会議メールマガジン「CGLニュース vol.12」に掲載 (10月1日)
- ・研究会、委員会において速報版を配布

(4) 概要編の作成 (2008年12月1日)

省エネ法における省エネ責任者以外のCGLメンバー等にとっても「分かりやすく、かつ読みやすい」ように概要編を作成し、CGLジャーナル vol.1 として発刊した。

3) 2009年度の活動計画 (案)

基本的には2008年度調査と同様に実施するが、結果報告後、行政を交えた形での情報提供の場を検討する。

(1) 調査実施 (2009年7月)

(2) 結果集計 (2009年8月)

(3) 結果報告 (2009年9月)

以 上

「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望_活動結果の報告

2009年2月26日

JILS_ロジスティクス環境会議事務局

◆経過

- ①2007年12月20日 第1回 JR 貨物殿への要望及び意見交換
- ②2008年2月7日 第2回 JR 貨物殿意見交換
- ③2008年2月29日 第3回 JR 貨物殿意見交換
- ④2008年3月7日 JR 貨物（経営企画室）殿より文書でご回答あり
- ⑤2008年4月8日 第1回国土交通省（政策統括官付）殿意見交換
- ⑥2008年4月25日 第1回 JR 貨物（経営企画室）殿・国土交通省（政策統括官付、鉄道局、環境政策課）殿との合同意見交換
- ⑦2008年6月17日 国土交通省（政策統括官付）殿から、関係各部署（鉄道局、環境政策課）に対しても要望書を提出されては如何かとの連絡が入る
（当初の想定では、政策統括官付のみ）
- ⑧2008年6月19日 JR 貨物（経営企画室）殿から、要望書を文書のかたちで受領することに対し社内からの抵抗が強く、難攻しているとの連絡が入る（出来れば文書のかたちでは受領したくない、とのニュアンスあり）
- ⑨2008年6月26日 第1回企画運営委員会（本委員会）において上記の状況を報告
今後の対応について、CO₂削減推進委員会_モーダルシフトWGの幹事らに一任される
- ⑩以降 JR 貨物（経営企画室）殿と断続的に協議。文書を受領したくない旨繰り返される
- ⑪2008年11月13日 JR 貨物（経営企画室）殿と協議。国土交通省（政策統括官付）が同席次の事項が決定
- ・ JR 貨物殿には要望書を出さない
 - ・ 国土交通省の鉄道貨物輸送関連部署に要望書を出す
 - ・ 要望書には JR 貨物殿に対する要望内容を含む
 - ・ 国土交通省の具体的な提出先は、今後、政策統括官付と相談の上、決定する
- ⑫2008年11月20日 第2回企画運営委員会（本委員会）において上記の決定事項を報告
- ⑬以降 国土交通省側と最終調整
- ⑭2009年1月26日 **国土交通省関係3部局へ提出**
（政策統括官、総合政策局 環境政策課 地球環境政策室、
鉄道局 総務課 貨物鉄道政策室）
- *なお、提出時に、JR貨物含めた情報交換会を開催したい旨の要請を行ったところ、国土交通省3部局には了承いただいた。

◆要望書（最終版）

☞ 資料3-2参照

以上

JILS 国第 08048 号
2009 年 1 月 26 日

国土交通省 政策統括官 殿

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

専務理事 徳 田 雅 人

ロジスティクス環境会議
企画運営委員会副委員長 増 井 忠 幸

「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望提出の件

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年より京都議定書の第一約束期間が開始し、二酸化炭素を中心とした温室効果ガス排出量 6%削減の達成に向け、行政と産業界が協調して取り組むことがより重要となっております。

当協会では、ロジスティクスの観点から持続可能型社会の実現に貢献することを目的として、2003年11月より「ロジスティクス環境会議」を設立し、発荷主企業・着荷主企業と物流企業の連携による、二酸化炭素排出量、包装資材等の環境負荷の削減に向けた取り組みを推進しております。

今回、二酸化炭素排出量削減をより効率的・効果的かつ継続的に推進する視点から、標記の案件に関し、ご留意いただきたい事項を要望としてまとめましたので、添付のとおり提示申し上げます。

ご高覧のうえ、ご検討賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

添付資料：「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望

<連絡先>

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境推進センター 北條・栗原

〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2丁目ビル3階

TEL:03-5484-4021 FAX:03-5484-4031 E-mail: cgl@logistics.or.jp

以上

「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望

社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議
CO₂削減推進委員会

1. 趣 旨

(社)日本ロジスティクスシステム協会では、ロジスティクスの観点から循環型社会の実現に貢献することを目的として2003年11月より「ロジスティクス環境会議」を立上げ、荷主企業・物流事業者との連携による二酸化炭素排出量、包装資材等の環境負荷削減に向けた取組みを推進しております。

今回「第2期ロジスティクス環境会議」の【CO₂削減推進委員会】において“モーダルシフト推進ワーキンググループ”を編成、会員企業のモーダルシフト促進のための活動を推進して参りました。

ワーキンググループの活動内容は、「鉄道へのモーダルシフト」促進のための課題の抽出やその対応策の検討、更にはそれらの課題への具体的な取組み内容をまとめた事例集の作成などがございます。

しかしながら、中には私どもだけでは解決できない課題も多々あるため、今回、委員会として「鉄道へのモーダルシフト」をより促進するための要望を関係当局にさせていただくことと致しました。

なお、要望内容につきましては、行政の関係当局のみならずJR貨物殿にも直接関係する項目もございますので、本要望書では「JR貨物殿関連項目」として記載、要望させて頂きましたのでよろしくご対処の程お願い致します。

CO₂排出量の削減が重要な課題となっております現在、物流における「鉄道へのモーダルシフト」は非常に大きな効果がございますことはご承知の通りでございます。

本要望について十分ご検討いただき、ご対応いただくことを切にお願い申し上げます。

2. 要望項目

以下6項目ございます。具体的内容は、3. をご参照下さい。

- ①輸送枠の有効利用及び拡大について
- ②料金について
- ③鉄道貨物駅について
- ④エネルギー使用量の算定について
- ⑤リードタイムについて
- ⑥品質について

3. 具体的内容

1) 輸送枠の有効利用及び拡大について

- ◆行政（国土交通省殿）への要望
 - ・国全体の輸送体系のグランドデザインの策定
 - ・ボトルネックにおける線路の増設
- ◆JR 貨物殿関連項目
 - ・貨物列車積載率¹⁾の向上（予約状況の見える化）
 - ・輸送契約期間²⁾の柔軟な設定
 - ・増結・増便

◆行政（国土交通省殿）への要望

僭越ではございますが、輸送分野の CO₂ 排出量削減策として有効なモーダルシフトはトンキロベースでは減少しており、(00 年度の内航海運+鉄道の輸送割合は 45.7%、06 年では 39.8%と減少) 今後のわが国の輸送体系のあり方を抜本的に検討する必要があると考えます。例えば、鉄道輸送を中心とした我が国全体の輸送（貨物及び旅客）体系のグランドデザイン、特に鉄道貨物輸送のあり方・役割（将来輸送量計画、サービス等）などについて中長期的な視座から、検討、策定されることを要望いたします。

また、短期的には、輸送能力拡大の緊急対策として、例えば、東海道本線名古屋駅近辺のボトルネックを解消するため、線路の増設などの対策を進めることが望ましいと考えます。

1) 貨物列車積載率 = [1本の貨物列車に積載されたコンテナの数 / 1本の貨物列車に積載可能なコンテナの数] × 100 (%)
例えば、26両編成のコンテナ列車の場合、積載可能なコンテナの数は130本であるから、積載されたコンテナの数が65本ならば貨物列車積載率は50%、91本ならば貨物列車積載率は70%となる。(5tコンテナで換算)

2) JR貨物とフォワーダー間の輸送枠の契約期間は3箇月単位。一方、フォワーダーと荷主間の輸送枠の契約期間は、3箇月単位を前提に、様々なケースがあることが考えられる。

◆JR 貨物殿関連項目

鉄道輸送を行うにあたり、荷主/フォワーダーは輸送枠を確保する必要がありますが、東海道・山陽線などの人気路線は、輸送枠を確保することが大変難しいと言われていています。しかしながら、上記東海道・山陽線のように輸送需要が集中している路線であっても、マクロ的に見た貨物列車の積載率は7割程度であるとの情報³⁾もごございます。

そこでモーダルシフト推進のため、JR 貨物殿に対し、まず現状の輸送枠における貨物列車積載率の向上を図る対策を講じられることを要望致します。

そのためには、まず、鉄道輸送の利用関係者に対し、輸送枠の空き状況をオープンにする⁴⁾必要があると考えます。

何故なら、鉄道輸送の発・受注の構造が、「荷主からフォワーダー」及び「フォワーダーからJR 貨物」という構造になっていることから、フォワーダーのJR 貨物への予約発注量と荷主の利用時の実輸送需要量との間に乖離が生じ、これが貨物列車の実積載率の向上を妨げていることが想定されるからです。従いまして需要の大きい路線につきましては関係者に予約状況がいつでも見えるようにし、また空きが出る場合、柔軟な対応により出来るだけ空きを減らす取組みが必要と考えます。

一方、荷主にとりましても輸送需要の変動を長期間で予測することが大変難しいことから、輸送枠を直前になって手放さなければならないことに起因する貨物列車積載率の低下を防ぐため、輸送枠の契約期間を短期間にするなど、輸送契約期間を柔軟に設定することなども必要と考えます。

また将来的には、高需要路線について種々課題があると考えられますが⁵⁾ 需要増対策として、貨車の増結や貨物列車の増便を検討する必要があると考えます。

2) 料金について

◆行政（国土交通省殿）への要望

- ・鉄道コンテナと海上輸送コンテナとの共通化のご検討

◆JR 貨物殿関連項目

- ・料金低減に対する考え方のご提示（料金を左右する要因・料金決定メカニズムなど）
- ・31ft コンテナ利用拡大策の検討（31ft コンテナの回送料金の見直しなど）

3) 東海道本線でもマクロに見ると30%の空きがあるという情報（国土交通省物流政策統括官付）、また、コンテナ輸送については現在の販売率は70%程度であり現状でも30%程度の空きがあるという情報【運輸と経済（財）運輸調査局、2008年1月、p.8】がある。これらの情報は、情報時点がやや古い（2003年）がローディングファクタ（貨物車1両あたりの積載率）の全国平均値を61.9%（ちなみに、関東⇄関西は62.8%）とする資料【路線研究のグランドデザイン 土木学会構造工学委員会鉄道構造小委員会路線研究のグランドデザイン研究会、2003年12月、p.229】の数字と比較的近い値である。

4) 以前は「黒板会議」と言って、貨物駅の事務所に掲示された黒板に記されたフォワーダー各社の積載情報を見ながら、フォワーダーの担当者が枠を融通しあうことができた。積載情報が電子化された今、このようなことが出来なくなっている。

5) 現状の在来線の幹線輸送力を増やすことは、競合する旅客の通勤列車を現状通りと仮定し、信号システムや列車最高速度を現在のままとした場合、困難であるとする記述がある【前掲 路線研究のグランドデザイン、p.242】。

◆行政（国土交通省殿）への要望

輸送容器の規格化・共通化・共用化は輸送効率向上・コストダウンに大変大きなウェイトを占めています。将来的に鉄道コンテナを海上輸送コンテナと共通化・共用化することにより、日本の物流の国際競争力は格段に向上すると思われまます。今後の重要な課題と考えますので是非ご検討をお願いします。

◆JR 貨物殿関連項目

荷主にとりましてモーダルシフトによってコストが増大してしまうようなこととなりますと、その推進を阻害することになりかねません。従いまして私ども荷主やフォワーダーが、自らどのようにすれば鉄道輸送コストの削減ができるか、できれば鉄道輸送コストを左右する要因や料金決定メカニズムについてご説明いただくと役に立つと考えます（例えば輸送ロット設定の考え方など）。

また、トラック輸送から鉄道輸送への切替を想定した場合、31ft コンテナは10トントラックと貨物容量がほぼ同じことから、極めて大きな役割を持ちます。しかしながら31ft コンテナは現在ほぼ全てが私有コンテナのため、JR 貨物殿が所有する12ft コンテナ（5t コンテナ）と異なり回送料金が上乗せされ、その結果コスト高に繋がるようなケースも起きています。このような現状を踏まえ、今後31ft コンテナの拡大策についてご検討をお願い致します。

3) 鉄道貨物駅について

◆行政（国土交通省殿及び地方自治体）への要望

- ・設備投資への支援、公共部門による貨物鉄道駅の整備手法の検討

◆JR 貨物殿関連項目

- ・輸送効率をあげるため31ft コンテナの取扱いターミナルの増設

◆行政（国土交通省殿及び地方自治体）への要望

上記対応のためには設備投資及び新駅開発整備に多大な費用が必要と思われまます。

モーダルシフトを、公共の政策として進める見地から、設備投資への支援策や公共部門による貨物鉄道駅の整備方策等を検討する必要があると考えまます。

◆JR 貨物殿関連項目

トラック輸送から鉄道輸送への転換を想定した場合、31ft コンテナの果たす役割は大きいものがあります。しかしながら、31ft コンテナの取扱いができる大型荷役機器（トップリフター）の配備駅は、303 駅⁶⁾ 中 53 駅（17.5%）に留まっています。このため、目的地近くの鉄道駅が使えず、遠方のトップリフター配備駅までトラック輸送を行わなければならない、CO₂ 排出量も増大しているといった例も多々ございます。

6) 303 駅の中には、事実上営業していない駅も含まれている。稼働中のコンテナ取扱駅はおおよそ 140 駅程度。

そこで輸送効率の向上、また今後の鉄道の利用拡大のため、トップリフターを配備した 31ft 及び 40ft コンテナの取り扱い駅を増やす⁷⁾ 必要があると考えます。

以下が要望する駅或いは地域です。

表 31ft 及び 40ft コンテナを利用したい駅・地域の例示 (1/2)

	弘 前	北 上	東福島 ORS	郡 山 貨物駅	土 浦
31ft	○	○	○	○	○
40ft	○	○	○	○	

表 31ft 及び 40ft コンテナを利用したい駅・地域の例示 (2/2)

	本 牧	四日市	米 原	敦 賀	西大分
31ft			○	○	○
40ft	○	○			

4) エネルギー使用量の算定について

◆行政（国土交通省殿）及び JR 貨物殿への要望

- ・荷主やフォワーダーによる輸送の効率化などの工夫が鉄道輸送のエネルギー使用量（CO₂ 排出量）に反映されるエネルギー使用量算定手法の開発及び告知
- ・将来的には、鉄道輸送のエネルギー使用量（CO₂ 排出量）を正確に把握するための手法の開発及び告知

◆行政（国土交通省）及び JR 貨物殿への要望

鉄道輸送のエネルギー使用量（CO₂ 排出量）を算出するために用いるトンキロ当たり原単位は、現状では一律であるため、例えば、貨物列車積載率の向上やコンテナ積載率の向上などによる輸送改善策の実施効果が把握できないのが現状です。

モーダルシフトをすればそれで終わりというわけではなく、モーダルシフト後も継続的な改善活動を実施し、その効果を測定できるようにする必要があります。つまり荷主やフォワーダーによる輸送の効率化などの工夫が鉄道輸送のエネルギー使用量（CO₂ 排出量）の低減に反映される手法を開発し告知する必要があると考えます。

また、将来的には、鉄道輸送のエネルギー使用量（CO₂ 排出量）を正確に把握するための手法を開発し告知する必要もあると考えます。

考えられる指標は以下のとおりです。

7) 「アクションプラン」に記述はある（53 駅→70 駅）が、具体的な時期は不明。

【改善活動を評価できると考えられる指標の例】

- ・コンテナの大きさに応じたエネルギー使用量（CO₂ 排出量）原単位
- ・コンテナ積載率⁸⁾に応じたエネルギー使用量（CO₂ 排出量）原単位
- ・貨物列車積載率を反映させたエネルギー使用量（CO₂ 排出量）原単位 など

5) リードタイムについて

◆JR 貨物殿関連項目

- ・ 定時、短時間輸送の確立
- ・ E&S (Effective & Speedy Container Handling System)方式実施駅の拡大

◆JR 貨物殿関連項目

荷主やフォワーダーは、これまで、トラック輸送と比べて長くなりがちな鉄道輸送のリードタイムを与件とした上でモーダルシフトを実施してきました。

今後とも鉄道輸送を安定して継続するためには、まず鉄道輸送の優位性である定時輸送を確保する必要があります。

さらに、鉄道輸送のリードタイムを短縮するために、結節点での滞留時間を削減する E&S 方式⁹⁾の実施駅を拡大することや接続ダイヤを見直すこと¹⁰⁾などが必要であると考えます。

6) 品質について

◆JR 貨物殿関連項目

- ・ フォークリフト荷役作業の品質向上

◆JR 貨物殿関連項目

荷主やフォワーダーは、これまで鉄道輸送の振動特性などに適合した包装資材の利用や養生などによって、輸送品質を確保してきたところであります。

しかしながら、鉄道駅でのフォークリフト荷役中に荷物を破損した例が報告されています。

鉄道貨物駅で実際の荷役業務に従事する業務委託会社を含めて、荷役作業の品質をこれまで以上に向上させる必要があると考えます。

以上

-
- 8) コンテナ積載率=[1本のコンテナに積載された貨物重量/1本のコンテナに積載可能な貨物重量]×100 (%)
例えば、5tコンテナの場合、積載可能な貨物重量は5トンであるから、積載された貨物重量が2.5トンならばコンテナ積載率は50%、4トンならばコンテナ積載率は80%となる。
- 9) E&S方式(着発線荷役:着発線上に荷役ホームがあり、列車が駅に到着した直後に荷役作業を開始し、そのまま発車できる)は荷役時間の短縮に寄与する。具体的な数字については、例えば、「路線研究のグランドデザイン 土木学会構造工学委員会鉄道構造小委員会路線研究のグランドデザイン研究会、2003年12月、p.229」などを参照。
- 10) 「アクションプラン」では、「拠点駅を結ぶ幹線列車は、トラックと概ね同等のリードタイムを提供していますが、フィーダー区間の駅を発着する場合は複数の列車を利用することから、リードタイムが長くなってしまいうケースがあります」という記述がある。

鉄道へのモーダルシフト促進に向けた今後の活動について（案）

1. はじめに

資料3-1のとおり、国土交通省3部局に対して、要望書を提出する際に、「今後、JR貨物殿を含めた情報交換会の開催」を要請したところ、了承いただいたところである。

以上を踏まえ、本件に関して、次年度の活動内容（案）等を提案したい。

2. 活動目的

今回提出した要望内容等に関して、現状におけるJR貨物殿、行政等の取組等について情報提供・交換等を通じて、相互の理解を深め、引き続き鉄道へのモーダルシフトの促進に資するため

3. 活動概要

- ① JR貨物、行政との情報交換会の開催
- ②（必要に応じて）その他関係主体との意見交換の実施の検討（全国通運連盟等）

4. 体制

上記を遂行する環境会議側の組織としては「企画運営委員会」とする。

5. その他

要望の提出及び上記活動を実施することを、第2回本会議の議事に含める形とする。

以 上

情報提供活動に関する2008年度活動内容及び2009年度活動計画（案）

I. 2008年度活動内容

1. シンポジウム、講演会等のイベントの開催

1) 概要

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

2) 2008年度活動内容

2008年度については、下記2つの催事を実施した。（詳細は別紙1）

(1) 「ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会」の開催

日 時：2008年6月6日（金） 13:20～16:50
会 場：人事労務会館／東京・港区
参加人数：69名

(2) 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会」の開催

日 時：2009年2月12日（木） 14:30～16:30
会 場：国際ファッションセンタービル／東京・墨田区
参加人数：103名

2. 媒体を通じた情報提供

1) 『CGLニュース』と『CGLジャーナル』による発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、以下の媒体を用いて、情報発信を行った。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

行政からの報道発表等を中心とした速報的内容について20号配信（2009年2月23日時点）
（詳細は別紙2参照）

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

行政施策動向、各委員会等における活動状況等を集約し、年2回発行予定

Vol.1 2008年12月1日

・省エネ法実態調査 結果報告特別号

Vol.2 2009年3月末（予定）

・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告

II. 2009年度活動計画（案）

1. シンポジウム、講演会等のイベントの開催

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施。

・上期（2009年8月から9月）1回、下期（2010年1月から2月）1回 開催予定

2. 媒体を通じた情報提供

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、引き続き以下の媒体を用いて、情報発信を行う。

(1) 『CGLニュース』（電子メール）

速報的内容とし、月2回程度の配信を予定

(2) 『CGLジャーナル』（冊子）

行政施策動向、各委員会等における活動状況等を集約し、年2回発行予定

以 上

シンポジウム、講演会等のイベントの結果報告

1. ロジスティクス環境会議 第2期委員会活動 成果発表会

1) 結果概要

- 日 時：2008年6月6日（金） 13：20～16：50
- 会 場：人事労務会館／東京・港区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：69名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

2) プログラム

時 間	内 容
13：20～13：25	開 会
13：25～14：10	発表① 【CO ₂ 削減推進委員会 モーダルシフトWG活動報告】 「鉄道へのモーダルシフトのさらなる推進に向けて」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 モーダルシフトWG 幹事 高松 孝行 氏（トヨタ自動車㈱ 物流企画部 主査）
14：10～14：15	休 憩
14：15～15：00	発表② 【CO ₂ 削減推進委員会 燃費向上WG活動報告】 「輸送事業者と発・着荷主の連携によるエコドライブ推進」 第2期ロジスティクス環境会議 CO ₂ 削減推進委員会 副委員長 燃費向上WG 幹事 石崎 雅規 氏（東芝物流㈱ 物流技術部 品質・環境管理部 参事）
15：00～15：10	休 憩
15：10～15：55	発表③ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 源流管理分科会活動報告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 源流管理分科会 幹事 矢野 裕児 氏（流通経済大学 流通情報学部 教授） 菅田 勝 氏（リコーロジスティクス㈱）クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役）
15：55～16：00	休 憩
16：00～16：45	発表④ 【グリーンサプライチェーン推進委員会 取引条件分科会活動報告】 「取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案-加工食品をモデルとして-」 第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会 副委員長 取引条件分科会 幹事 恒吉 正浩 氏（味の素㈱ 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長）
16：45～16：55	「第3期環境会議の設置委員会の概要と今後のスケジュール」 ロジスティクス環境会議 事務局
16：55	閉 会

* 役職は開催時点のもの

2. グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会

1) 結果概要

- 日 時：2009年2月12日（木） 14：30～16：30
- 会 場：国際ファッションセンタービル /東京・墨田区
- 参加料金：無 料
- 参加人数：103名
- 主 催：(社)日本ロジスティクスシステム協会

2) プログラム

時刻	内 容
14：30～14：35	【開 会】 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事））
14：35～15：00	【報 告】 「グリーンロジスティクスチェックリスト調査結果の概要」 栗原 純一 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境推進センター）
15：00～16：25	【パネルディスカッション】 「グリーンロジスティクスチェックリスト活用のすすめ」 <コーディネータ> 北條 英 （社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 主任研究員） <パネリスト> 矢野 裕児 氏 （流通経済大学 流通情報学部 教授 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 菅田 勝 氏 （リコーロジスティクス株式会社 クオリティー（KAIZEN）アドバイザー 株式会社ロジスティクス革新パートナーズ 代表取締役 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG 幹事）） 上田 詔俊 氏 （鴻池運輸株式会社 環境部 課長） 堀口 英雄 氏 （東芝物流株式会社 品質・環境管理部 参与 （CGL グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG））
16：25～16：30	【閉 会】

* 役職は開催時点のもの

以 上

CGLニュースの配信結果

Vol.1 2008年5月20日

- ・2006年度温室効果ガス排出量 確報値を公表（環境省）
- ・国土交通白書2008を公表（国土交通省）

Vol.2 2008年5月28日

- ・2007年の年平均大気中二酸化炭素濃度が過去最高に（気象庁）
- ・「脱温暖化2050プロジェクト」～低炭素社会に向けた12の方策～を発表（環境省）

Vol.3 2008年6月4日

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ推進事業が決定（グリーン物流P会議）
- ・エネルギー白書2008を公表（経済産業省 資源エネルギー庁）

Vol.4 2008年6月11日

- ・平成19年度家電リサイクル実績を公表（経済産業省、環境省）
- ・第2期成果発表会開催報告

Vol.5 2008年6月30日

- ・弾力的な鉄道貨物輸送システムのあり方に関する調査報告書について（国土交通省）
- ・東京都環境確保条例の改正（東京都）
- ・平成20年版環境・循環型社会白書を公表（環境省）

Vol.6 2008年7月4日

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・環境行動計画2008を発表（国土交通省）
- ・「平成20年度 容器包装3R推進環境大臣賞」の募集について（環境省）

Vol.7 2008年8月4日

- ・グリーン物流パートナーシップ ソフト支援事業 2次募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・グリーン物流パートナーシップ 普及事業 追加募集のお知らせ（グリーン物流P会議）
- ・「低炭素社会づくり行動計画」が閣議決定
- ・第15回エコレールマークの認定について（国土交通省）
- ・クリーンディーゼル普及推進方策の公表について（経済産業省、国土交通省、環境省）

Vol.8 2008年8月15日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査について
- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集開始（国土交通省）
- ・平成20年度エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者の募集について（国土交通省）
- ・バイオ燃料地域利用モデル実証事業の事業実施地区決定について（農林水産省）

Vol.9 2008年8月21日

- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ優良事業の募集について（経済産業省）
- ・平成21年版 環境・循環型社会白書表紙絵コンテストの実施について（環境省）

Vol.10 2008年9月1日

- ・平成19年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）

Vol.11 2008年9月24日

- ・グリーン物流パートナーシップ推進事業決定（2次募集分）（グリーン物流P会議）
- ・地球温暖化学習教材「地球温暖化 今、わたしたちにできること」について（環境省）
- ・「食品ロスの削減に向けた検討会」について（農林水産省）
- ・物流と環境をテーマとしたイベント「第16回渋谷コロキウム」のご案内（武蔵工業大学）

Vol.12 2008年10月1日

- ・3R推進月間がスタート（環境省）
- ・「海の10モードプロジェクト」実船計測の実施について（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 省エネ法実態調査 集計結果（速報版）の公表
 - グリーン物流研究会 活動報告
 - 包装の適性化推進委員会 活動報告
 - グリーンロジスティクスチェックリスト調査

Vol.13 2008年10月17日

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集を開始（グリーン物流P会議）
- ・営業倉庫、トラックターミナル等の省エネ設備導入支援の2次募集のお知らせ（国土交通省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

Vol.14 2008年11月10日

- ・グリーン物流パートナーシップ 推進事業（普及事業）2次募集（グリーン物流P会議）
- ・環境配慮型3PL手引きの作成について（国土交通省）
- ・バイオ燃料の持続可能性に関する基準・指標のあり方について（農林水産省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - グリーン物流研究会 活動報告

Vol.15 2008年11月21日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議のご案内（グリーン物流P会議）
- ・2007年度温室効果ガス排出量（速報値）の公表について（環境省）
- ・「環境を『力』にするビジネスベストプラクティス集」の発表（経済産業省）
- ・カーボンフットプリント・統一マークの決定について（経済産業省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 包装の適性化推進委員会 活動報告
 - グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 活動報告

Vol.16 2008年11月28日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付開始（グリーン物流P会議）
- ・第16回「エコレールマーク」の認定について（国土交通省）
- ・大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値（気象庁）
- ・第5回エコプロダクツ大賞の結果について（エコプロダクツ大賞推進協議会）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - CGLジャーナルⅢ 第1号発刊
 - 第2回企画運営委員会開催報告

Vol.17 2008年12月15日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 参加受付中（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度グリーン物流パートナーシップ 推進事業を追加決定（グリーン物流P会議）
- ・産業廃棄物処理業者の優良性評価制度について（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団）

Vol.18 2008年12月22日

- ・第7回グリーン物流パートナーシップ会議 開催報告（グリーン物流P会議）
- ・平成20年度エコシップマークの認定について（国土交通省）
- ・平成18年度の産業廃棄物の排出及び処理状況等について（環境省）
- ・ロジスティクス環境会議関連
 - 第6，7回グリーン物流研究会開催報告

Vol.19 2009年1月6日

- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内
- ・「環境にやさしい企業行動調査」の結果について（環境省）

Vol.20 2009年1月27日

- ・「鉄道へのモーダルシフト」促進のための要望書を提出
- ・「省エネ法対応 荷主の省エネ推進の手引き」について（財団法人省エネルギーセンター）
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査 結果報告会のご案内

以 上

第3期ロジスティクス環境会議

第2回本会議（時間入り）

2009年3月10日（火）13:30～15:30

ホテルニューオータニ 地下1F 麗の間

次 第（案）

1. 開 会（5分）

2. 経過報告（5分）

3. 議 事

1) 研究会、委員会等の2008年度活動報告及び2009年度活動計画（案）について

（説明7分×4＋4分＋質疑応答5分＝37分）

- (1) グリーン物流研究会
- (2) 包装の適正化推進委員会
- (3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会
- (4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG
- (5) 省エネ法実態調査について

2) 鉄道へのモーダルシフト促進に向けた要望書の提出について

（説明5分＋質疑応答2分＝5分）

3) 情報提供活動について（説明3分＋質疑応答2分＝5分）

4) 2008年度収支決算（案）及び2009年度収支予算（案）について

（説明5分＋質疑応答2分＝7分）

5) 今後のスケジュールについて（説明3分＋質疑応答1分＝4分）

6) 2008年度活動の総括について（説明4分＋質疑応答1分＝4分）

4. 行政施策動向の紹介（4省×10分＝40分）

5. 閉 会（5分）

以 上

第3期ロジスティクス環境会議 第2回本会議 タイムスケジュール (案)

時刻	項目	担当	時間
13:30~	1. 開会		
	議長挨拶	三村議長	5分
13:35~	2. 経過報告		
		事務局	5分
13:40~	3. 議事 (議事進行: 三村議長)		
	1) 研究会、委員会等の2008年度活動報告及び2009年度活動計画(案)について		
13:40~	(1) グリーン物流研究会	下村幹事	7分
13:47~	(2) 包装の適正化推進委員会	増井委員長	7分
13:54~	(3) グリーン物流推進のための取引条件検討委員会	山本委員長	7分
14:01~	(4) グリーンロジスティクスチェックリスト調査WG	矢野幹事/菅田幹事	7分
14:08~	(5) 省エネ法実態調査について	事務局	4分
	(6) (1) ~ (5) の質疑応答	事務局	5分
14:17~	2) 鉄道へのモーダルシフト促進に向けた要望書の提出について		
	鉄道へのモーダルシフト促進に向けた要望書の提出について	高松委員	5分
	質疑応答		2分
14:24~	3) 情報提供活動について		
	情報提供活動について	事務局	3分
	質疑応答	事務局	2分
14:29~	4) 2008年度収支決算(案)ならびに2009年度収支予算(案)について		
	2008年度収支決算(案)ならびに2009年度収支予算(案)	事務局	5分
	質疑応答	事務局	2分
14:36~	5) 今後のスケジュールについて		
	今後のスケジュールについて	事務局	3分
	質疑応答	事務局	1分
14:40~	6) 2008年度活動の総括について		
	2008年度活動の総括	杉山企画運営委員長	4分
	質疑応答	事務局	1分

時刻	項目	担当	時間
14:45～	4. 行政施策動向の紹介		
14:45～	経済産業省	高橋課長	10分
14:55～	国土交通省	山口参事官	10分
15:05～	農林水産省	吉井課長	10分
15:15～	環境省	(打診中)	10分
15:25～	5. 閉会		
	副議長挨拶	岡部副議長	5分

以上

第3期ロジスティクス環境会議 2008年度スケジュール(案)

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の適正化	取引条件	チェックリスト調査		
5月			21 第1回					
6月		26 第1回	18 第2回	10 準備委員会	12 準備委員会			6 成果発表会
7月	31 第1回		16 第3回					
8月						調査	調査	
9月			24 第4回	26 第1回			集計	
10月			23 第5回		2 第1回		報告	
11月		20 第2回	19 第6回(見学)	6 第2回	14 第2回	集計		
12月			3 第7回			11 第1回 結果返却	1 ジャーナル 第1号	
1月			21 第8回	15 第3回	19 第3回			
2月		26 第3回		19 第4回	20 第4回	2 第2回		12 結果報告会
3月	10 第2回					下旬 ジャーナル 第2号		

第3期ロジスティクス環境会議 2009年度スケジュール(案)

	本会議	企画運営 委員会	グリーン物流 研究会	委員会		WG	省エネ法 実態調査	イベント
				包装の 適正化	取引条件	チェックリスト 調査		
開催数	1回	3回	8回	6～8回	6～8回	3回		2回
4月				○第5回	<調査>			
5月			○第9回	○第6回	○第5回			
6月		○第4回	○第10回		○第6回			
7月			○第11回	○第7回			<調査>	
8月					○第7回	<調査>	<集計>	
9月			○第12回	○第8回	○第8回	↑	<報告>	報告会
10月		○第5回	○第13回	○第9回		<集計>		
11月			○第14回		○第9回	↓		
12月			○第15回	○第10回	○第10回	<結果返却>		
1月		○第6回	○第16回	○第11回				
2月					○第11回			シンポジウム
3月	○第3回							

*委員会等のスケジュールについては、検討状況等により変更になる場合がございます。

以上